

女性医師への支援に関するアンケート結果について

佐藤雅訓

横須賀市医師会では女性医師支援に関する現状把握や情報・意見交換を目的に昨年第一回の女性医師懇談会を開催しました、また今後も女性医師支援活動を継続、発展させていくため医師会内に女性医師支援委員会を設置することも検討されています。

今回この活動の一環として女性医師の皆さんの置かれている環境やニーズを明らかにして今後の活動の参考にするため非会員も含めた横須賀市内の女性医師の皆さんを対象に無記名でアンケートを実施しましたが、その結果をここにご報告いたします。

調査期間：平成 30 年 12 月 28 日～平成 31 年 1 月 25 日

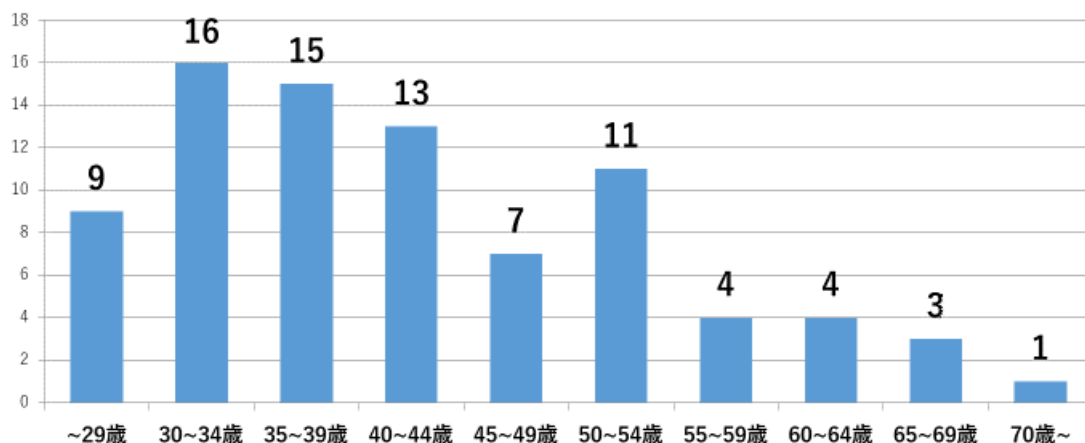
調査対象：横須賀市内勤務の女性医師 242 名（会員 76 名・非会員 166 名）

回答数：83 名

回答率：34.3%

1 基礎事項

問1. 年代について（回答者 83名）



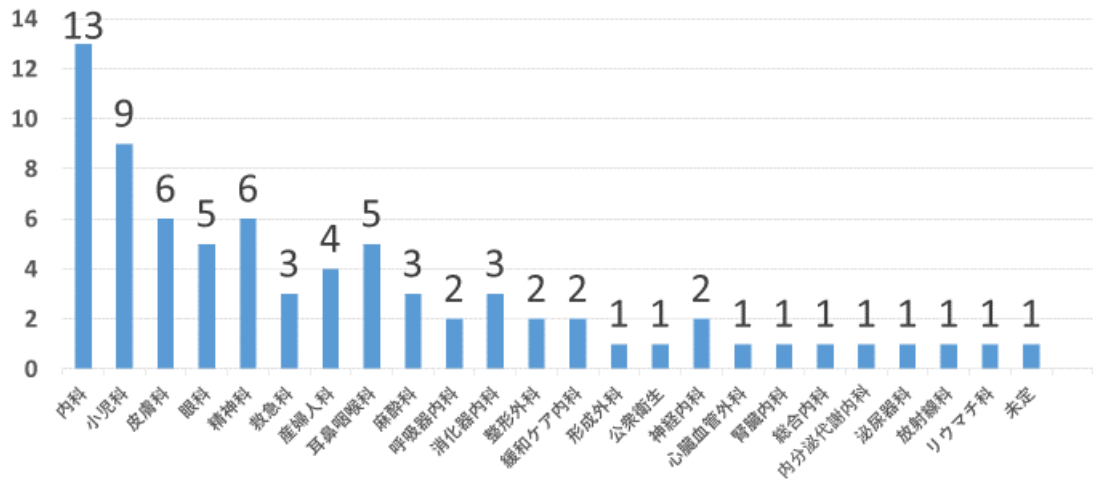
問 2. 現在の勤務先について（回答者 82 名）

病院 58 名

診療所 21 名

その他 2 名（病院と診療所ともに勤務、保健所勤務）

問3. 従事する診療科名について (回答者 75名)



問 4. 現在の勤務体系について (回答者 83 名)

常勤(フルタイム)	64 名
非常勤	15 名
休職	1 名
その他	3 名 (複数医療機関で常勤・非常勤として勤務)

問 5. 今後の希望する働き方について (回答者 82 名)

常勤(フルタイム)	60 名
非常勤	15 名
休職	1 名
その他	6 名 (常勤で働くことについて体力的なことから迷っている、無理のない形で減らしていきたい)

問 6. 配偶者について (回答者 83 名)

いる	60 名
いない	23 名

※配偶者の職業について (回答者 59 名)

医師	37 名
医師以外の医療従事者	8 名
その他の職業	14 名

※結婚・出産希望について（回答者 28名）

希望する	18名
希望しない	10名

問7. 子供について（回答者 82名）

いる	50名
いない	32名

※子供の人数について（回答者 49名）

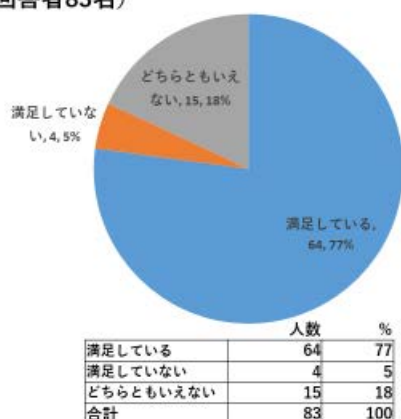
1人	21名
2人	24名
3人	3名
4人	1名

※子供の年齢について（回答者 49名）（複数回答）

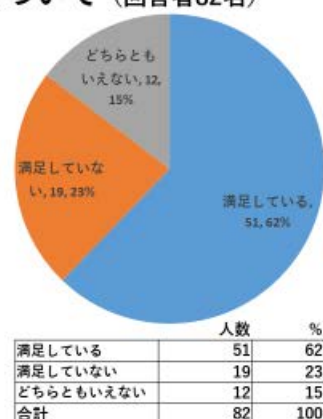
高校生以上	29名
中学生	7名
小学生	15名
幼児 4-6歳	11名
幼児 1-3歳	15名
乳児	5名

2 就労環境について

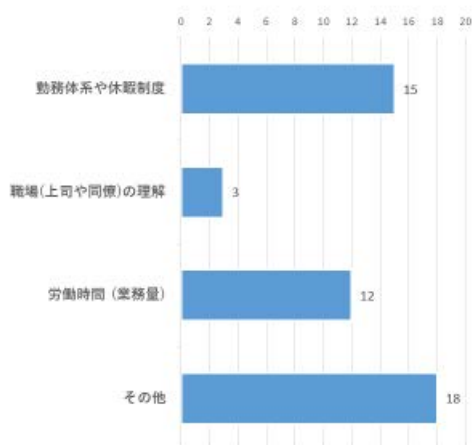
問8. 現在の勤務環境について
(回答者83名)



問9. 学会、研究会、セミナー等への参加について (回答者82名)



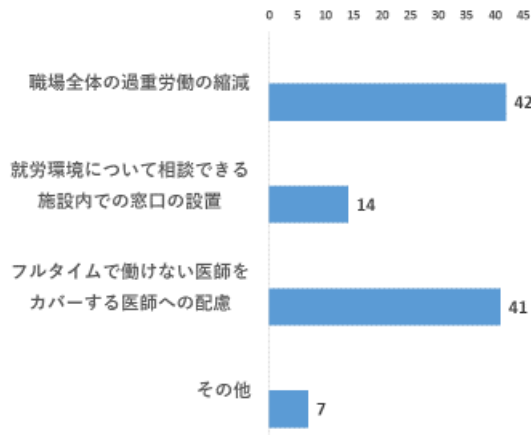
※満足していない理由 (複数回答あり, 回答者 37名)



※その他

- ・研究会のスタートが早ければと思う。
- ・家庭、仕事、セミナーとの時間が合わない。産業医の講習会などいい日時のものはすぐにいっぱいになってとれない。
- ・色々な制限制約の中で動いている。
- ・休日や夜に参加するのが困難。
- ・開業医のため休診をためらってしまう。
- ・学会、研究会等の催され方
- ・学会、研究会、セミナー参加時に子どもをみてもらう調整することが大変である。(調整がつかないことも多い)
- ・もう少し参加したいがセミナー等拘束時間が長い。
- ・医局人事の関係で自宅から遠方の病院に勤務しており、通勤時間が長い。ため時短(9時30分~16時30分)にせざる負えない。
- ・夫が子どもをマネジメントできない。
- ・病院の問題ではなく、子どもが2人いるので参加できない。出席どうしても~などは行くが。
- ・評価・給与体制
- ・家事育児の為参加したい研究会やセミナーに参加できない。
- ・保育園・学童のやっていない時間帯は調整難しい。
- ・子どもがおり、セミナーetcの参加はあまりできない。

問10. 職場での理解醸成の手法について (複数回答あり, 回答者73名)

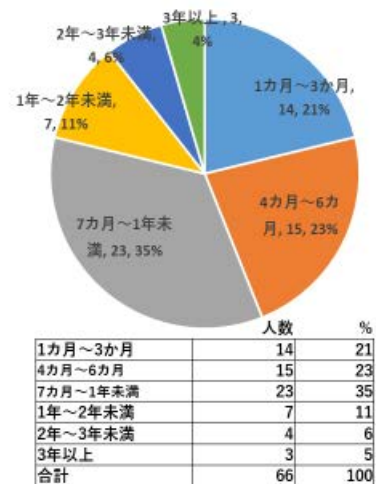
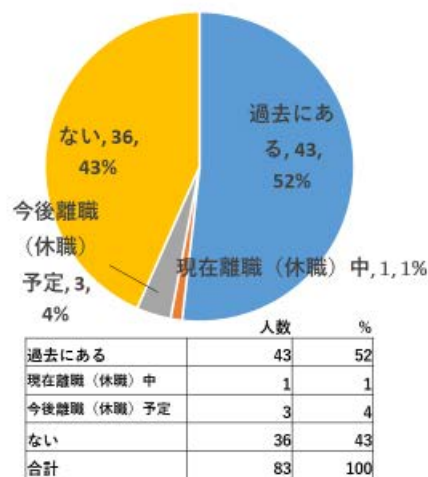


※その他

- ・ 同じ環境の医師が多く問題ない
- ・ フレックスタイムの設置
- ・ 当人（女医）の発信力
- ・ 院長の独断でその都度、休みの取得方法等方針が変更される
- ・ 制度化、時短勤務等

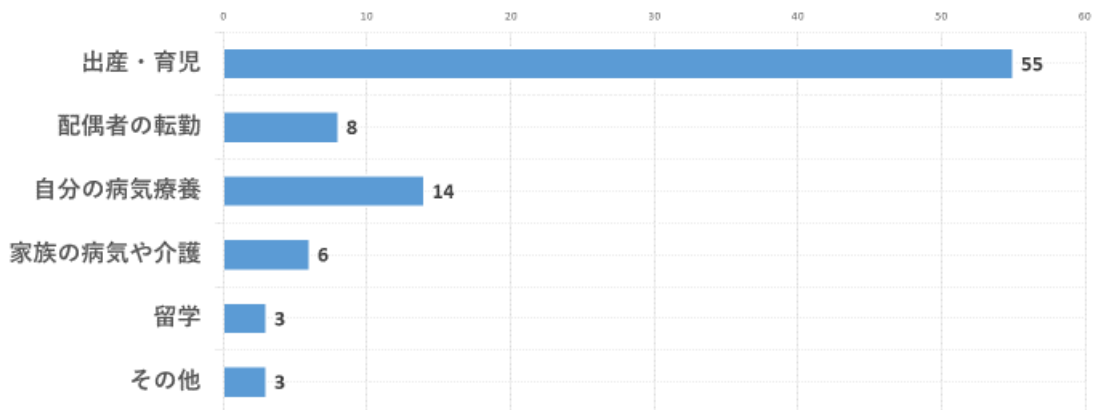
3 復職支援について

問11. 離職(休職)について (回答者83名) 問11-2. 離職(休職)期間について (回答者66名)



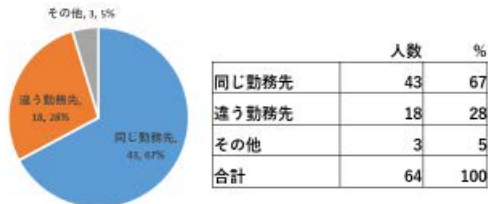
(注) 経験がない方も将来を考えて回答 4名

問11-3. 離職(休職)した (する) 理由について (複数回答あり, 回答者 79名)

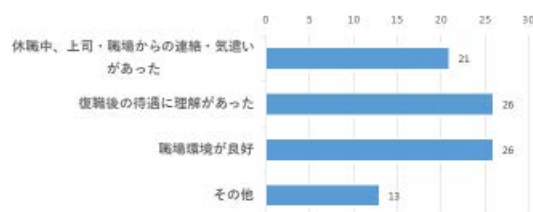


• (注) 経験がない方も将来を考えて回答 4名

問11-4. 離職後の職場について(回答者 64名)



問11-4-1. その勤務先に復職した理由について (複数回答あり, 回答者76名)



11-4.その他

- ・一人目の復職は違う勤務先、二人目は同じ勤務先

11-4-1.その勤務先に復職した理由について

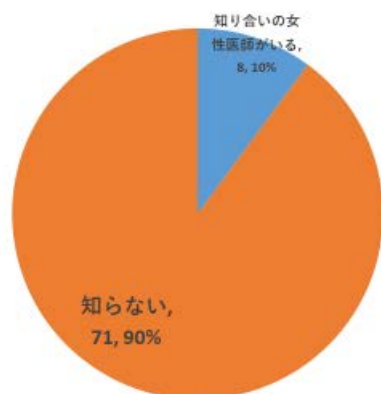
* 職場環境が良好の具体例

- ・実家の医院であり両親の理解と協力があったため
- ・非常勤勤務が可能
- ・上司の理解
- ・大学院生だった
- ・ローテートのタイミングでもあり
- ・働きなれている・非常勤だったので
- ・二度目、部分休業制度の利用ができ、周囲の医師の理解もあった
- ・家から近い

* その他

- ・立地・非常勤としての復帰時の条件が良好
- ・他の職場を知らなかった
- ・医局人事、時短勤務が可能であった

問12. 横須賀市内で現在休職中の医師（男女問わず）について
（回答者 79名）



問12-2. 本アンケートにご協力してもらえるか？
（回答者 5名）

	人数	%
協力してもらえる	0	0
協力してもらえない	5	100

「休職中の医師も医局長から配布されているはず」との回答有

問13. 復職に必要と思うサポートについて（複数回答あり、回答者78名）

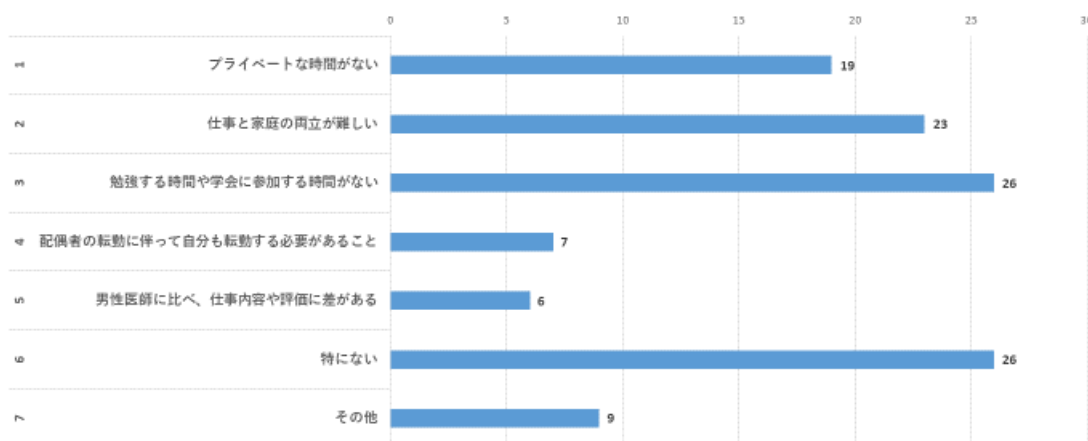


※その他

- ・病児保育所 ・時間勤務 ・当直業務の減免
- ・復職する際フルタイムで働かない分、そのことによって、同僚たちへの負担が過度に大きくならないようにあるいはその場合応分の待遇がなされるようなシステムの構築が必要と思われます。
- ・13について、子どもが就学前の場合は雇用証明がなければ保育園入園が出来ないため。
- ・1.2について自分は地元の認可外保育所を探しました。11.12について自分は3か月弱で復帰したので必要ありませんでした。その他、保育園を利用できない夜間、土日勤務の免除、学校行事で休むことの理解。

4 相談体制について

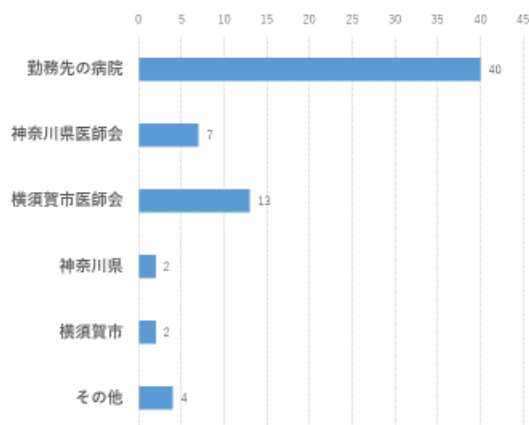
問14. 日頃感じている悩みについて（複数回答あり，回答者76名）



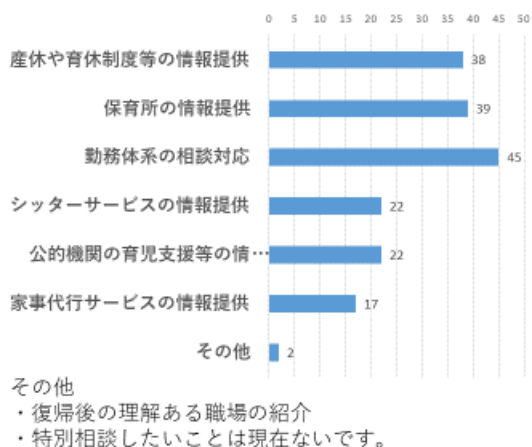
※その他

- ・とにかく時間とお金がありません。
- ・苗字が変わること。医師届変更など手続きが多いような気がする。
- ・E-ラーニングで最新の種々の領域の知見を効率よくcatch upできるシステムの構築を希望している。
- ・おおむね理解があり、大きな悩みはない。
- ・仕事の性質上、予定通りに帰宅できないことが多く、プライベートは予定が立てにくい。
- ・介護もあり。
- ・育休中、自分自身のスキルアップがはかれない。復職後、時短で働く際に他医師（フルタイム）に負担をかけてしまう。
- ・2について、特に子供のこと（保育園や学校）は母親がやるという考えが根強い。夫は協力してくれているが、職場で男性（父）ではなく女性（母）がやるべきだという考えが強く休みにくい様子。
- ・5について、出産は女性にしかできないため、産休育休による差が出るのは仕方ないと思う。職場ではどうしても男性→仕事・女性→子育て
- ・代診を探すのが大変。

問15.相談しやすい相談窓口の設置場所について（複数回答あり，回答者64）



問16.相談窓口における対応について（複数回答あり，回答者68）



5 まとめ

① 基礎事項

- ・回答者の過半（53%）が30歳～44歳の子育て世代であった。
- ・勤務体系では、常勤フルタイムが、回答者の77%を占め、今後の働き方についても、常勤フルタイムが73%を占めており、常勤フルタイムで働き続ける意向が強い。
- ・結婚・出産については、回答者の2/3（64%）が希望している。また回答者の72%に配偶者がおり、配偶者が医師・医療従事者である女性医師が77%になる。
- ・既婚者で子供がいる女性医師は61%であり、既婚者のうち10名程度（12%）に子供がいないと推定できる。
- ・子供の人数は、2人が49%、1人が43%を占め、以下、子供3人が6%、子供4人が2%であった。子供の年齢は、高校生以上が35%だが、幼児～中学が58%と過半を占め、乳児も6%いるため、子育て中の女性医師が仕事と家庭の両立を求められている現状が読み取れる。

② 就労環境について

- ・現在の勤務環境については、「どちらとも言えない」を含めると、満足が95%となり、環境的には就労しやすい状況にあると思われる。
- ・学会・セミナー等への参加については、勤務環境には満足している等の女性医師のうち15名程度の方が悩みを持っていると推定される。理由を見ると、勤務体系や過重労働などのほか、育児に係る制約が大きいことや研究会等の開催方法(曜日・時間帯等)により参加できないとの意見が多かった。

- ・育児のための休暇や定時での帰宅、当直などをカバーしている他の医師の負担増に対する配慮・気遣い、肩身の狭い思いなど、職場内での軋轢を解消できるような制度・勤務体系を望む意見が多かった。

③ 復職支援について

- ・休職経験がある女性医師は半数を超え、理由としては「出産・育児」が62%と圧倒的に多く、休職期間も1年未満が79%を占めており、うち6か月以下が44%であり、労働基準法上の最低限(産前産後各6週間)の産休しか取得していない女性医師が21%となっている。逆に、1年以上の取得は22%であり、育児休業が取得できにくい厳しい就業環境がうかがえる。また、復職後の最新医療知識の講習や現場での研修などのサポート体制の必要性を感じているとの意見もある。
- ・復職した職場は、同じ勤務先が67%と高く、復職後の待遇や職場環境の良好さを理由としているが、非常勤勤務・短時間勤務が可能であることも復職した理由の要素になっている。
- ・復職に必要なサポートとしては、「院内保育所・院内病児預かりサービス」が約80%と群を抜いている。次いで「学童保育・24時間保育」が46%となるが、「シッターサービスの紹介・費用補助」が30%と意外に低かった。これは、家庭と仕事との両立に向け、日常的に安定した保育が求められているものと思われる。
- ・復職に際してのサポートとしては、休職中に行う研修(自宅・自宅外)は20%未満と低く、復職後の研修、特に現場で必要な知識等を習得する研修は41%と高かった。これは、ワークライフバランスによる現象の表れとも思われる。
- ・日頃の悩みについては、「プライベート時間がない・仕事と家庭の両立が難しい」が30%程度、「勉強や学会参加の時間がない」が34%と業務量による負担が大きいことが見えるが、一方で「特にない」も34%あり、勤務環境における「満足」が反映されている。
- ・相談窓口については、相談内容が「産休・育休、保育所」が57%程度、「勤務体系」が66%となっており、それらの相談内容を踏まえ、窓口の設置場所は「勤務先」が63%だった。

アンケート結果からは女性医師が離職せず働き続けるには、生活と仕事の調和(ワークライフバランス)をいかに図るかが大きなジレンマとなっていることが窺えました。職場環境・勤務体系のあり方と家庭問題、特に育児とのバランスのとり方が難しく、これは当事者の努力だけでは解決できず、配偶者の協力や周囲(勤務先等)の理解・支援が重要であることが、改めて浮き彫りになりました。

本医師会における女性医師支援の方向性としては、個々の勤務先の問題もありますが、女性医師が働き続けるためにワークライフバランスを考えるにあたり、潤滑油として、少しでも制約を取り除けるようないろいろな選択肢を用意し、女性医師自身のモチベーションを高めていくことが重要であると思われました。